

サワッディーピーマイ。あけましておめでとうございます。

2008年7月下旬から人身取引プロジェクト準備と立上げのためタイに赴任していますがこの5ヶ月間で首相が3人交代し、バンコク都知事も3人目に突入しようとしています。国が赤派(タクシン)と黄色派(アンチ・タクシン)の2局に分かれてしまい政局は不安定ですが、日常生活は通常通り、何ら変わりありません。

そんな中、2008年11月24日からプロジェクトの指標設定調査が始まりました。3ヶ月間でバンコク、チェンライ、パヤオの3箇所で調査を行い、MDTメンバーや人身取引被害者へのインタビューを通じて現在のタイでの人身取引保護プロセスの強み、弱みを分析し、プロジェクトの指標を設定していくというものです。



2008年12月23

日にバンコク周辺のMDTメンバーを集め、JICAとして初めてのワークショップを行いました。

ました。MDTの成功事例として最近注目されている「ランヤーペルケース」。2006年9月にサムットサコーン県の海鮮加工工場で66人のミャンマー人が人身取引被害者として救出されたケースですが、被害者すべてがミャンマーに送還され、工場側が賠償金を支払ったことにより先月やっと終わりを迎えました。今回のワークショップではこのケースを事例に被害者保護の始めから終わりまでのプロセスについて成功点や課題点などを話しあってもらいました。



ワークショップのファシリテーターはCenter for the Protection of

Children's Rights Foundation (CPCR) のワナーさん。参加者は政府側からはBATWC、労働省、検察官、警察、クレットラカーンシェルター(長期受け入れ)、サムットサコーンシェルター(緊急受け入れ)、NGOはCPCR、Foundation For Women (FFW)、Fight Against Child Exploitation (FACE)など実際の保護プロセスに関与した約40名が集まりました。

このランヤーペルケースはMDTがうまく機能した、初の政府間(タイとミャンマー)共同での送還作業となった、工場のオーナーが賠償金を支払った、など成功点が多く挙げられました。他方、記録の取り方、被害者が長期間シェルター滞在する際のサポート内容、本国へ帰国後のフォローアップなどの課題点も挙げられました。



次回のワークショップは比較的MDTがうまく機能していると言われる北部で行います。バンコクのMDTとどのような違いがあるのか興味深いです(古川)。